

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2023.11

No.137

会報

目次

■ 令和6年度（第46回）通常総会のご案内	1
■ 第46回日本分子生物学会年会（MBSJ2023）開催のお知らせ（その4）	2
■ キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2023	8
Part1 「事前アンケートから考える：人生の選択肢を増やすための Ph.D.」	
Part2 「博士についてのお悩み解消！～ Ph.D. の価値と可能性について～」	
■ 研究倫理委員会企画・研究倫理フォーラム	9
「生成 AI と科学研究：共創の未来を目指して」	
■ 第47回日本分子生物学会年会（MBSJ2024）開催のお知らせ（その1）	10
【年会長の挨拶 その1】	10
【年会組織】	11
【プログラム概要】	11
【公募シンポジウムの企画公募について（2024年1月31日（水）受付締切）】	13
【日程表（予定）】	16
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	17
■ 第23期役員・幹事・各委員会名簿	18
■ 賛助会員芳名	19



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<https://www.mbsj.jp/>

第47回 日本分子生物学会年会



MBSJ 2024

11月26日(火)

オンラインポスター発表

11月27日(水)～29日(金)

福岡国際会議場

マリノメッセ福岡

演題登録期間：2024年7月1日(月)～7月31日(水)

事前参加登録期間：2024年7月1日(月)～10月1日(火)

年会長：木村 宏

東京工業大学
科学技術創成研究院



令和6年度（第46回）通常総会のご案内

令和5年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 後藤 由季子

以下の要領で第46回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

ご承知のように、本法人の重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の1/2以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様のご積極的なご参加をお願いいたします。

記

日 時：令和5年12月7日(木) 18:30～19:30

会 場：神戸国際展示場2号館1階 特設会場

予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）

2) 令和5年度（2023年度）決算承認の件

3) 令和6年度（2024年度）活動予算書承認の件

4) その他

◎以下のいずれかの方法でご出欠回答をお願いいたします。

ご都合がつかない場合には、必ず委任状をご提出ください。

①学会ホームページに設置されている出欠回答（委任状）フォーム

（右のQRコードからアクセス）

②学会よりメール配信された回答フォーム（10月末配信）使用によるメール送信

③新年度の会費請求書（10月下旬発送）に同封されている出欠はがき



※総会会場にて軽食をご用意する予定です。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

第46回日本分子生物学会年会 (MBSJ2023) 開催のお知らせ (その4)

会 期 :

(オンライン開催) 2023年11月27日(月)~12月1日(金) ※5日間

(現地開催) 2023年12月6日(水)~8(金) ※3日間

会 場 : 神戸ポートアイランド

年 会 長 : 林 茂生 (理化学研究所・生命機能科学研究センター)

年会事務局連絡先 : 第46回日本分子生物学会年会事務局 (株)エー・イー企画 内)

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2023@aeplan.co.jp

年会ホームページ : <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/>

X (旧 Twitter) : https://twitter.com/mbsj_2023/

【年会長の挨拶 その4】

10月になりようやく暑かった夏が終わった感があります。それにしても夏が長すぎはしませんかね～？さて年会に向けて「巨大な雑談室へようこそ！」というキャッチフレーズを用意しました。学会はフォーマルな発表の場だけではなく、旧知の友人、論文で名前を知った憧れの研究者、全く別分野の研究者などとランダムに出会い、雑談を通じてサイエンスのアイデアと気づきを得る貴重な場でもあります。今年も大判の名札を採用し、そこに貼り付けられる研究分野を象徴するイラストのシールを用意します。自分だけの名札をデコって出会いのチャンスを増やしてください。

Late Breaking Abstract(LBA) の応募が締め切られ、大会の発表数が固まりました。一般演題：2,264 演題、LBA：621 演題、合計：2,885 演題となり 2018 年の横浜大会とほぼ同等の数でパンデミック前のレベルに戻った感があります。特に LBA の数は過去最大数となり、最新の研究成果が数多く報告されることを楽しみにしています。ポスターセッションでは一般演題と LBA の区別なしで配置する予定です。また参加者のアピールの機会を増やしていただくために一般演題の中からシンポジウムに 237 件を採択して頂き、フラッシュトークのサイエンスピッチはポスター会場の特設ステージで 542 演題もの発表が行われます。シンポジウムはオンライン 18 件、オンサイト 107 件が予定されており、19 件のフォーラムも開催されます。必ずやあなたの仕事に役立ち、好奇心を満たすセッションがあるはずです。

今年も EMBO のご協力でポスタークリニックが行われるので奮ってご参加ください。そして激動化の時代を迎えた科学論文出版を見据えて EMBO publishing と Genes to Cells の編集者を招いての Scientific Publication の将来に関するランチョンセッションが 12/8 に予定されています。さらにフォーラム枠を用いて科学コミュニケーションのセッションを二日続けて行います。これに連動してサイエンスイラストレーターの方々のお仕事をポスター展示して頂き、研究者との交流とお仕事依頼などの場として活用する企画を用意します。科学コミュニケーターとコミュニケーションを深めることで研究成果の発信にお役立てください。

年会は 11/27 (月) からのオンラインシンポジウムで始まります。9:00 からと 16:00 からの朝夕配信で 1 ヶ月を目処にオンデマンド配信も行います。朝からガッツリ視聴もよし、お仕事の合間、出張の車内で気楽にザッピングされるもよし、スキマ時間にオンデマンド視聴もよしなので、ぜひお楽しみください。

COVID-19 が 5 類に移行し街ではマスク姿の人々の数も減りつつあります。しかし最近になってコロナやインフルエンザ感染のニュースが頻発し、私の周辺でも感染の報告は後を断ちません。私も用心のために COVID-19 とインフルエンザの予防接種を受けました。会場ではマスクの無料配布、演台へのシールド設置などの対策を講じます。せっかくのオンサイト学会で感染してしまうことのないように会員の皆様方も十分な備えの上でご参加いただくことをお願い申し上げます。

第46回日本分子生物学会年会

年会長 林 茂生

(理化学研究所・生命機能科学研究センター)

Finally, October is here, and it feels like the hot summer has come to an end. But seriously, wasn't this summer just way too long? 😊 Now, in preparation for the annual conference, we've come up with the slogan "Welcome to the Giant Chat Room!" This conference isn't just about formal presentations; it's also a precious opportunity to randomly meet old friends, revered researchers you've only known from papers, and even researchers from entirely different fields through casual conversations, gaining science ideas and insights. This year, we're using large name badges and providing stickers with illustrations symbolizing your research area that you can decorate your badge with. So, make your badge your own and increase your chances of making new connections.

The number of presentations for the conference is now fixed. We have a total of 2,885 presentations, with 2,264 in the general category and 621 as Late Breaking Abstracts (LBA), which brings us back to the pre-pandemic level, almost matching the 2018 conference in Yokohama. Especially exciting is the record number of LBAs, and we're looking forward to many hot topics being shared. General and LBA presentations are categorized together in the poster sessions. To give participants more opportunities to shine, we've selected 237 general abstracts for presentation at the symposia, and there will be 542 flash talks on the dedicated stage in the poster area. We have a total of 125 symposia (18 online, 107 on-site) and 19 forums. You'll find sessions that will benefit your work and satisfy your curiosity.

Thanks to the support of EMBO, we're holding a poster clinic this year, so be sure to participate. Also, we have a lunch session on the future of Scientific Publication, welcoming editors from EMBO publishing and Genes to Cells on December 8th, focusing on the rapidly changing situation of scientific publishing. Additionally, we've dedicated two days to science communication sessions in the forum slots. In conjunction, we've prepared an exhibition of artworks of science illustrators to facilitate interactions with researchers. This provides opportunities to interact with science communicators to increase the chance of your works reaching a wider audience.

The conference begins with online symposiums on November 27th (Monday). We'll have live streaming sessions from 9:00 AM and 4:00 PM, with on-demand viewing available for approximately a month. Whether you want to watch intensively in the morning, casually during work breaks, or during a business trip, we've got you covered, so please enjoy the sessions. While COVID-19 has been downrated to level 5, the number of people wearing masks in the city is decreasing. However, we've recently seen frequent news about COVID-19 and influenza infections, and reports of infections around me are still coming in. For safety, I've also received COVID-19 and influenza vaccinations. We'll take precautions at the venue, such as distributing masks and installing shields on the stage. We ask all members to participate with thorough preparation to avoid infection during this in-person conference, which we've been looking forward to.

President of MBSJ2023

Shigeo Hayashi

(RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research)

【開催形式】

本年会は、11月27日(月)～12月1日(金)の1週間はオンライン先行開催とし、本期間のシンポジウムはオンラインでのみ視聴いただけます。※後日オンデマンド配信(12月31日(日)まで)を予定しております。

12月6日(水)～8日(金)に神戸ポートアイランドで開催するプログラムは完全現地開催となり、オンラインではご参加いただけませんのでご注意ください。

【感染症対策】

1. COVID-19とインフルエンザの感染が流行しています。ご自分の健康を守り、感染蔓延を防ぐためにワクチン接種と会場でのマスク着用をお勧めします。
2. COVID-19やインフルエンザ感染が疑われる場合は医療機関を受診し、参加の可否はご自身の状態を見て慎重にご判断下さい。
3. 会場ではマスクを無料配布しますのでご活用ください。

【プログラム】

シンポジウム
ポスター
サイエンスピッチ（ショートトーク）
フォーラム
キャリアパス委員会企画
研究倫理委員会企画
通常総会
バイオテクノロジーセミナー
バイテクショートセミナー
出展者セミナー
高校生研究発表
機器・試薬・書籍等附設展示会
特別展示「ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）」

◆キャリアパス委員会企画

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー 2023

- ・Part1「事前アンケートから考える：人生の選択肢を増やすための Ph.D.」

日時：12月6日(水) 12:00～13:15

会場：第10会場（神戸国際会議場3階国際会議室）

- ・Part2「博士についてのお悩み解消！～Ph.D.の価値と可能性について～」

日時：12月7日(木) 12:00～13:15

会場：第10会場（神戸国際会議場3階国際会議室）

◆研究倫理委員会企画・研究倫理フォーラム

「生成AIと科学研究：共創の未来を目指して」

日時：12月6日(水) 18:30～20:00

会場：第9会場（神戸国際会議場1階メインホール）

◆第46回通常総会

日時：12月7日(木) 18:30～19:30

会場：神戸国際展示場2号館1階 特設会場

※会場では軽食をご用意いたします。（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

◆EMBO Press コラボレーションランチョンセミナー

「あなたの論文はどこへ行く：論文出版とオープンサイエンスに関する対話」

日時：12月8日(金) 12:00～13:15

会場：第10会場（神戸国際会議場3階国際会議室）

※会場では軽食をご用意いたします。（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

◆出展者セミナー

出展者のショートプレゼンテーションを行います。最新機器、試薬などの情報を入手されたい方は是非、ご参加ください。

◆高校生研究発表

今年で12回目となる、高校生たちによる研究発表を行います。ぜひ、未来の分子生物学を担う高校生の発表をご覧いただき、激励の声をかけてください。

・オンライン発表（口頭発表）

日 時：12月2日(土) 14:00～16:00

実施形式：Zoom ウェビナー

※オンライン発表の視聴には参加登録と年会ホームページからの「高校生オンライン発表視聴申込」が必要です。

・現地発表（口頭発表・ポスター発表）

日 時：12月8日(金)

口頭発表：13:45～14:45 ポスター発表：14:45（口頭発表終了後）～15:45

会 場：神戸国際展示場2号館1階 特設会場

【参加登録に関するご案内】

事前参加登録は10月10日(火)に締め切りました。以降の参加登録は下記要領にて受付いたします。

なお、事前参加登録を行った場合でも、10月11日(水)までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効ですので、後期-当日参加登録を行ってください。

〈後期-当日参加登録〉

1. オンライン登録

- ・受付期間：10月17日(火)～12月8日(金)

※〈オンライン開催プログラム（11/27-12/1）の聴講のみ〉の参加登録は12月28日(木)まで可能です。

- ・受付方法：年会ホームページの「参加登録」ページよりお申し込みください。
- ・参加登録費決済方法：クレジットカード決済のみ
- ・決済完了通知メールを出力いただくか、スマートフォン等で表示し、当日参加受付のスタッフにご提示ください。
参加章をお渡しいたします。

2. 当日参加受付での登録

- ・受付期間：12月6日(水) 8:30～17:00
12月7日(木) 8:30～17:00
12月8日(金) 8:30～15:00
- ・場所：神戸国際展示場2号館1階ホワイエ
神戸ポートピアホテル本館地下1階ホワイエ
- ・参加登録費決済方法：現金のみ

その他、参加手続きに関する詳細は、年会ホームページをご確認ください。

<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/>

◆参加登録費

区分	オンライン開催プログラム (11/27-12/1) の聴講のみ ※演題投稿不可 ※現地開催プログラム参加不可	事前参加登録 ※オンライン開催・現地開催 プログラムのいずれも参加可能	後期-当日参加登録 ※演題投稿不可 ※オンライン開催・現地開催 プログラムのいずれも参加可能
登録受付期間	7/3～12/28	7/3～10/10	10/17～12/8
正会員	3,000 円	13,000 円	20,000 円
学生会員	500 円	3,000 円	4,000 円
学部学生 (会員・非会員問わず)	500 円	1,000 円 ※一般演題投稿希望者は「学生会員」、もしくは「非会員（一般演題投稿あり）」での参加登録が必須	1,000 円
非会員 (一般演題投稿なし)	7,000 円	17,000 円	25,000 円
非会員 (一般演題投稿あり)		30,000 円	

参加登録費の税区分：会員は不課税、非会員は税込
年会参加費に飲食費は含まれません

※プログラム検索・要旨閲覧システムの代金はすべてのカテゴリーの年会参加費に含まれています。

※後期-当日参加登録の参加費支払い方法は、オンライン登録でのクレジット決済、もしくは当日参加受付での現金による支払のみとなります。銀行振込は選択できませんので、ご注意ください。

※後期-当日参加登録者の参加章（ネームカード）は、参加いただく初日に会場でお受け取りください。

※シニア会員と次世代教育会員は、参加登録画面の専用登録フォームからのお申し込みをお願いいたします。

【プログラム検索・要旨閲覧サイト】

プログラム検索・要旨閲覧サイト（先行オンライン開催の視聴サイトを含む）は、11月13日に公開しました。

本年会では、Webシステムのみを採用し、アプリの作成はいたしませんので、ご注意ください。

ログインに必要なID・パスワードは、オンライン参加登録時にご自身で設定されたメールアドレスとパスワードとなります。

当日会場で参加受付をした方には参加章にログインID・パスワードを記載してお渡しします。

年会ホームページ（<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/>）よりアクセスしてください。

【全体日程表】

■オンライン開催（Zoom ライブ配信＋オンデマンド配信）

11月27日(月)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
11月28日(火)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
11月29日(水)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
11月30日(木)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
12月1日(金)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
12月2日(土)		高校生研究発表 14:00-16:00 (予定)

■現地開催

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12月6日(水)			シンポジウム 9:30-11:45			バイテクセミナー 12:25-13:15	バイテクジョートセミナー 12:25-12:55		シンポジウム 16:00-18:15			フォーラム 18:30-20:00		
					キャリアパス委員会企画 12:00-13:15							研究倫理委員会企画 18:30-20:00		
			貼付			展示会見学 13:15-13:45	ポスター発表・討論 13:45-15:45 サイエンスピッチ 13:45-14:45 出展者セミナー 14:45-15:45				撤去			
	機器・試薬・書籍展示 9:30-17:00													
12月7日(木)			シンポジウム 9:30-11:45			バイテクセミナー 12:25-13:15	バイテクジョートセミナー 12:25-12:55		シンポジウム 16:00-18:15			フォーラム 18:30-20:00		
					キャリアパス委員会企画 12:00-13:15							総会 18:30-19:30		
			貼付			展示会見学 13:15-13:45	ポスター発表・討論 13:45-15:45 サイエンスピッチ 13:45-14:45 出展者セミナー 14:45-15:45				撤去			
	機器・試薬・書籍展示 9:30-17:00													
12月8日(金)			シンポジウム 9:30-11:45			バイテクセミナー 12:25-13:15			シンポジウム 16:00-18:15					
			貼付			展示会見学 13:15-13:45	ポスター発表・討論 13:45-15:45 サイエンスピッチ 13:45-14:45 出展者セミナー 14:45-15:30 高校生研究発表 13:45-15:45				撤去			
	機器・試薬・書籍展示 9:30-16:00													

キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2023

Part1 「事前アンケートから考える：人生の選択肢を増やすための Ph.D.」

日 時：2023 年 12 月 6 日(木) 12：00～13：15（75 分）（年会初日）

会 場：神戸国際会議場 3 階国際会議室（第 10 会場）

司 会：甲斐 歳恵（大阪大学大学院生命機能研究科）

●イントロダクション

甲斐 歳恵

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

甲斐 歳恵（座長／阪大）、井関 祥子（医科歯科大）、大川 恭行（九大）、

鐘巻 将人（遺伝研）、胡桃坂 仁志（委員長／東大）

大学の 4 年制学部や修士課程を卒業・修了して就職、あるいは 6 年制学部を卒業して国家試験で資格を取得し専門職に就く、といった道もある中で、さらに博士課程へ進学して博士号を取得するキャリアを選択する意味と、その価値とは何なのでしょう？ 博士号があると、その先の人生にどのような選択肢ができるのでしょうか。キャリアパス委員会では今年 8 月に事前アンケートを実施し、学生・ポスドク・non-PI・PI など異なる立場の方々に、博士号に対する意識や進路選択時に参考にした意見、海外志向についてお聞きしました。ランチタイムセミナーの当日は、異なる立場の人たちがこの問題についてどのように考えているのか、アンケート結果をもとに、立場や年齢による違いや共通点について紹介し、特に興味深い経験や個別の意見について、パネラーや参加者の皆さんと一緒に深掘りし、考えたいと思います。博士号を取得すべきかどうか、取得後のキャリアの可能性について、あるいは今後の研究者人生の方向について、何かのヒントや思いもよらない可能性が見つけれられるかも知れません！ 皆様、是非奮ってご参加ください！

●企画：甲斐歳恵（座長）、井関祥子、大川恭行、鐘巻将人、來生（道下）江利子、武部貴則、胡桃坂仁志（委員長）

Part2 「博士についてのお悩み解消！～ Ph.D. の価値と可能性について～」

日 時：2023 年 12 月 7 日(木) 12：00～13：15（75 分）（年会 2 日目）

会 場：神戸国際会議場 3 階国際会議室（第 10 会場）

司 会：佐田 亜衣子（九州大学生体防御医学研究所／熊本大学国際先端医学研究機構）

●講演

小林 武彦（東京大学定量生命科学研究所）

「マルチプレイヤーとしての博士の価値」

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員 & 小林武彦氏

佐田 亜衣子（座長・九大／熊本大）、岩崎 由香（理研）、西山 朋子（京大）、平谷 伊智朗（理研）、

三浦 恭子（熊本大）、胡桃坂 仁志（委員長／東大）、小林 武彦

博士号は世界的に通用するパスポートとも言われ、キャリアの選択肢が広がり、個人の力が問われるこれからの時代こそ、大きな価値を持つものと考えられます。一方で、博士課程へ進学することや将来のキャリア、ライフイベントとの両立など、漠然とした不安を抱えている人も少なくないでしょう。本セッションでは、小林武彦さんを講師にお招きして、博士人材の多様なキャリアパスの例や研究で得られたスキルを活かした活動、プライベートな時間の過ごし方などについて、聴衆の皆さまと相互作用しながら情報共有と議論を行いたいと思います。

※参加者の皆様にご自身のスマートフォン・タブレット端末等から専用サイトへアクセスしていただき、ご意見やセッション中に行うアンケートの結果などを会場のスクリーンでリアルタイム表示する「オーディエンスインタラクションツール（Slido）」を導入します。

研究倫理委員会企画・研究倫理フォーラム

「生成 AI と科学研究：共創の未来を目指して」

日 時：2023 年 12 月 6 日(水) 18：30～20：00

会 場：神戸国際会議場 1 階 メインホール（第 9 会場）

今回の研究倫理フォーラムでは、生成 AI が研究倫理に与える影響について考えます。講演者の岡崎直観先生は、大規模言語モデル（LLM）と関わりが深い自然言語処理研究のトップランナーのおひとりで、機械学習の世界でもっとも権威のある国際カンファレンスのひとつである International Conference on Machine Learning (ICML) で論文査読や論文執筆における LLM 利用のポリシーメイキングに関わった経験があります。これらを踏まえて、LLM の近年の発展、科学論文と LLM の関係についてご講演頂きます。本フォーラムではまずは現状と機械学習の論文でどこまで何が許されているのかを情報を共有し、今後の議論につなげることを目的とします。

本フォーラムが開催される時までに LLM によって何が起きているのか、どのような社会に変貌しているのか、予測が難しく、企画がどのような形で成立するかはわかりません。そのような“わからなさ”や時代の変化と向き合いながら、LLM による研究・教育環境への影響についても議論できればと考えております。

●講演

岡崎 直観（東京工業大学情報理工学院）

●パネルディスカッション

二階堂 愛（座長）、大谷 直子、三浦 正幸、後藤 由季子、岡崎 直観

●企画：日本分子生物学会 研究倫理委員会＋理事長

小安 重夫（委員長）、大谷 直子、二階堂 愛、三浦 正幸、吉村 昭彦（以上委員）

後藤 由季子（理事長）

第47回日本分子生物学会年会（MBSJ2024）開催のお知らせ（その1）

会 期：
（オンライン開催） 2024年11月26日（火） ※希望ポスター発表のみ

（現地開催） 2024年11月27日（水）～29日（金） ※3日間

会 場：福岡国際会議場、マリンメッセA館・B館

年 会 長：木村 宏（東京工業大学科学技術創成研究院）

演 題 登 録 期 間：2024年7月1日（月）～ 7月31日（水）※予定

事前参加登録期間：2024年7月1日（月）～10月10日（水）※予定

年会事務局連絡先：第47回日本分子生物学会年会事務局（株）エー・イー企画 内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2024@aeplan.co.jp

年会ホームページ：<https://www.aeplan.jp/mbsj2024/>

【年会長の挨拶 その1】

第47回日本分子生物学会年会を担当する木村宏です。COVID-19以降の困難な状況の中、第43回～46回の各年会長のご尽力により、オンラインやハイブリッド、それらの併用など工夫を凝らして年会在開催されてきました。これらの経験や社会情勢を踏まえて、第47回年会は、対面とオンラインのハイブリッドで開催することにしました。研究に対する議論はやはり対面が最も効果的だと思いますが、オンラインはどこからでも参加できるというメリットがあります。可能であれば福岡の年会にご参集いただき、対面で熱い議論を行っていただきたと思います。ただ、家庭の事情や機関の業務、経済的な理由などにより、福岡の年会に来にくい場合でも、オンラインであれば気軽に参加できると思います。

第47回年会では、特にキャッチフレーズは設けていませんが、「多様な参加形態」と「新しい出会い」を意識しています。

「多様な参加形態」に関しては、ハイブリッド開催の利点を生かします。福岡の現地開催の前日（11月26日）に、オンラインポスター発表を設けます。時差のある海外からも発表できるように、午前、午後、夕方のセッション時間を選べるようにする予定です。シンポジウムは全てハイブリッドですので、シンポジウム会場とオンラインのどちらでも参加可能です。学会会場に来ていても特定のシンポジウム会場に入らず、オンラインで参加して複数のシンポジウムをサーフィンすることもできます。このような観点から、また、できるだけ最新データを発表していただけるように、オンデマンド配信は行わないことにしました。現地でのポスターに関してもオンライン配信はありません。事前に予定を組んで、効率よく発表を聞いていただきたと思います。

「新しい出会い」に関しては、小規模の研究会や関連学会からのミニシンポジウムの企画を大募集します。大きな学会のひとつの利点は、広い分野から研究者が参加するため異分野融合が進むことです。特定の学問分野の学会ができるのはある程度その分野が成熟してからとなるのが通常ですが、その前身や勉強会としてコアな関連研究者が集まって〇〇研究会というようなものを開催することも多くあるのではないのでしょうか。そして、このような集まりから新しい学問分野が発展する可能性が大いにあります。分子生物学会の会員にも会の活動を広く紹介することを兼ねて、是非ミニシンポジウム企画を提案していただきたと思います。それから、この何年か続いていた一人複数演題の発表は継続せず、一人一演題に制限します。シンポジウムの予定演者が重なってしまった場合、若手の共同研究者に発表の機会を与えていただくことをご検討下さい。

ところで、福岡での年会開催は、第42回（佐々木裕之年会長）以来5年ぶりとなります。過去の福岡年会はポスター会場の関係で4日間の開催でしたが、2021年に「マリンメッセ福岡 B 館」が新設されたため、本年会の現地開催は他の会場同様に3日間となり、お忙しい方にも参加しやすい日程となっています。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

第47回日本分子生物学会年会
年会長 木村 宏
（東京工業大学科学技術創成研究院）

【年 会 組 織】

組織委員会

年 会 長：木村 宏（東京工業大学科学技術創成研究院）
副 年 会 長：糸 昭苑（東京工業大学生命理工学院）
組 織 委 員 長：岩崎 博史（東京工業大学科学技術創成研究院）
プログラム委員長：松浦 友亮（東京工業大学地球生命研究所）
組 織 委 員：岩崎 由香（理化学研究所生命医科学研究センター）
三浦 恭子（熊本大学大学院先導機構／大学院生命科学研究部）

【プログラム概要】

◆オンライン開催（11/26）

ポスター発表

開催形式：オンライン開催（AM, PM, 夕方の3区分を予定）

本年会では、当日の現地参加が難しい研究者の皆様も発表にご参加いただけるよう、前日にオンラインポスター発表の枠を設けます。所属機関や育児・介護等家庭の事情、旅費、時差の関係等で、福岡会場までお越しいただくことにお悩みの皆様は、ぜひご検討ください。

◆現地開催（11/27～29）

指定シンポジウム7企画、公募シンポジウム100企画程度、フォーラム、ポスター発表、高校生発表、市民公開講座
開催形式：口頭発表はすべてハイブリッド形式（現地発表をオンラインにてライブ配信 ※オンデマンド配信はございません）にて実施、会期中のポスター発表は現地のみ

◆指定シンポジウム（7企画予定）

指定シンポジウムについては、以下7企画の開催を予定しております。

1. クロマチン・ランドスケープ：ゲノム機能制御の新境地を切り開く / Chromatin Landscapes: Charting new frontiers in genome regulation

オーガナイザー：大川 恭行（九州大学）、胡桃坂 仁志（東京大学）

About 40 trillion of cells that make up the body have the same blueprint (genetic information) but produce different organs in humans. This is accomplished by chromatin landscape, which emerges as vital orchestrators of genome function. The aim of this symposium is to shed light on the latest advancements and insights surrounding chromatin landscapes, offering a comprehensive exploration of their pivotal role in genome regulation.

2. お休み生物学：立ち止まる生物の謎に迫る / Kick-back Biology: Unraveling the Mysteries of Biological Standby

オーガナイザー：砂川 玄志郎（理化学研究所）、本城 咲季子（筑波大学）

Kick-back Biology examines life's standby modes, such as hibernation, sleep, and various dormancies. This symposium unveils the principles and molecular details of these pauses, highlighting organisms' adaptive responses. We aim to explore life's intentional interruptions and continuations. While our topics may be about 'kicking back,' we urge attendees not to kick back and to stay engaged and reflect deeply throughout the session.

3. 新しい視点と技術で解き明かす人生100年時代の「老い」 / Unraveling the Mechanisms of Aging with New Perspectives and Technology

オーガナイザー：佐田 亜衣子（九州大学）、三浦 恭子（熊本大学）

Aging is a gradual decline in physiological functions over time. As aging progresses, tissues and cells exhibit characteristic biochemical changes known as the hallmarks of aging. However, the roles of these molecules in diverse

species and organs, and how these factors contribute to aging in the organism as a whole, remain to be elucidated. This symposium will integrate new ideas and cutting-edge technologies on the biology of aging and discuss potential intervention strategies for healthy aging.

4. 幹細胞・オルガノイド生命科学の衝撃 / Promise and Impact of Stem Cell and Organoid BioMedical Science

オーガナイザー：武部 貴則（大阪大学）、佐藤 俊朗（慶應義塾大学）

The burgeoning fields of Stem Cell Research and Organoid Technology are paving the way toward unparalleled insights into previously inaccessible facets of biomedical science. Our symposium, by weaving together advanced molecular biology platforms, will feature innovative research directions that illuminate fundamental biological principles through the lens of stem cell and organoid research. These emergent technologies serve as pivotal tools to bring the future trajectory of biomedical science into new dimensions.

5. 挑戦的な繁殖戦略を駆動するゲノム進化原理 / The genomic basis of "exploratory" reproductive strategies

オーガナイザー：赤木 剛士（岡山大学）

Living organisms have established various reproductive systems to maintain genetic diversity within a species. Some lineages have recurrently evolved more adaptable reproductive strategies via scraping and rebuilding the mechanisms once established. Here, with a broad perspective on the evolution of life forms, we will discuss the basis of genomic dynamics that trigger such "exploratory" evolution of reproductive mechanisms, which continually update existing conventional systems.

6. 宇宙における生命：ありうる多様な物質、環境、機能 / Life in Space: Diversity in the building blocks, environments, and biological functions

オーガナイザー：藪田 ひかる（広島大学）、鈴木 志野（JAXA 宇宙科学研究所 / 理化学研究所）

Our scientific understanding on life on Earth has been remarkably improved since the beginning of molecular biology in 1950s. On the other hand, we do not know what "Universal Life" is, as Earth-life is the only life we know of, for now. In order to determine the true definition of life, it is necessary to unveil the origin and evolution of life in space and to investigate habitability of planets other than Earth. This session will address the diversity of possible building blocks of life, environments, and biological functions on Earth and planets by integration of the latest researches in geochemistry, microbiology, bioscience, and space explorations.

7. 再定義される翻訳研究の常識 / Redefining the conventional view of translation

オーガナイザー：田口 英樹（東京工業大学）、松本 有樹修（名古屋大学）

The common view of translation is transforming drastically. Translation dynamics are highly diverse and flexible, and gene expression regulation at the level of translation contributes much more to cellular processes than expected. Disruption or perturbation of such regulatory systems is associated with human health and disease. This symposium aims to share the current status of translation dynamics with researchers that challenge the conventional view.

◆公募シンポジウム（約 100 企画予定）

現地開催にて公募シンポジウムを開催します。

会員より企画を公募しますので、後述の募集要項をご参照の上、奮ってご応募ください。

◆一般演題（公募シンポジウム口頭発表・ポスター）

公募シンポジウムでは一般演題から演題を採択いただきます（ミニシンポジウムでは一般演題からの採択は必須ではありません）。また、ポスターセッションではポスター賞の実施を予定しております。演題投稿の受付開始は 2024 年 7 月 1 日(月)を予定しております。詳細は 2 月発行予定の次回会報、および年会ホームページにてご案内いたします。多くの皆様からの演題投稿をお待ちしております。本年度では一人一演題の登録を原則とし、複数演題発表は認められません。

◆高校生発表

オンライン開催期間に1セッション、および現地開催の最終日午後（予定）に、高校生による研究発表を予定しています。

◆バイオテクノロジーセミナー

企業との共催によるランチョンセミナーを開催いたします。

◆その他の企画

その他の企画は詳細が決まり次第、年会ホームページにてご案内いたします。

【公募シンポジウムの企画公募について（2024年1月31日(水)受付締切）】

本年会では、公募シンポジウムの企画を会員の皆さまより公募いたします。ご提出いただいた企画案は、プログラム委員会において厳正なる審査を行い、採否を決定します。採否結果は2月下旬に応募者へご連絡いたします。下記要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

◆募集要項

◆募集枠

- 約100テーマを採択する予定です。
 - ※ 150分枠のシンポジウムと90分枠のミニシンポジウムがあります。
 - ※ 150分枠のシンポジウムでは一般演題から演題を採択いただきます。
 - ※ 150分枠のシンポジウムへの応募が90分枠で採択される場合もあります。

◆講演言語

- 講演言語はオーガナイザーに一任いたしますが、英語または日本語のみに統一をお願いいたします。特に、英語セッションに日本語の発表を採択することは避けてください。
- 発表スライドは講演言語にかかわらず、全演者に英語での作成をお願いいたします。専門用語などについては、スライドや口頭で補助的に日本語を使用することを推奨いたします。

◆オンライン配信

- 現地発表をオンラインにてライブ配信する予定です。オンデマンド配信はありません（ライブのみです）。

◆演者と演題

- 150分枠のシンポジウムは、一般演題からの採択を必須といたします。複数演題の採択をお願いいたします。
- 企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、少なくとも1名は分子生物学会の会員であることが必須です。
- 指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしないよう、構成をお願いいたします。
- 若手研究者や海外演者がオーガナイザーや指定演者に含まれる企画を優先して採択いたします。
- 本年会では一人一演題の登録を原則とし、複数演題発表は認められません。

◆参加費、旅費の支援等

- 海外、国内を問わず、非会員指定演者の参加費は免除といたします。
- 会員・非会員を問わず、国内演者の旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません。
- 海外演者をオンサイトで招聘する場合には、年会から旅費（1名：1企画につき15万円、2名以上：1企画につき30万円）・宿泊（年会指定のホテルでの最大4泊分）を支給いたします（国内演者への旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません）。

◆新学術領域、学術変革領域、CREST、さきがけ等との 共催セッション

新学術領域、学術変革領域、CREST、さきがけ等の「冠」企画の実施も可能とします。

- 講演枠：150 分枠で実施予定
- 演者選定：班会議と同様の企画にならないよう、領域外の講演者を必ず含めてください。一般演題からの採択を必須といたします。
- 協賛金：20 万円の協賛金の負担をお願いいたします。
(ホームページやプログラム集に冠表記を記載いたします)

◆小規模研究会等 共催セッション

小規模研究会や小規模学会の共催セッションを募集いたします。多様な分野からの活発なご参加をお待ちしております。

- 講演枠：90 分枠で実施予定
- 演者選定：一般演題から採択の必要はなく、指定演者のみの構成にて問題ございません。
- 協賛金：上記の「冠企画」とは異なり、冠表記について協賛金の負担は必要ございません。
※ただし、他の公募シンポジウムと同様に 150 分枠を希望される場合は、20 万円の協賛金負担をお願いいたします。

◆応募要領

年会ホームページより専用の応募サイトにアクセスし、2024 年 1 月 31 日(水)までに下記の必要情報をご登録ください。

1) 開催枠希望 (150 分枠 or 90 分枠)

90 分希望の場合は一般演題からの採択希望有無

2) 開催言語 (日本語 or 英語)

3) タイトル (和文・英文)

4) タイトル略称 (和文・英文)

- 日本語 8 文字以内、英語 5 単語以内 (半角文字も入力可能だが、全角文字と半角文字が混在する場合、半角文字も 1 文字としてカウント)。
- 可能な限り一般的ではない英語の略称は使用せず、企画の内容が分かるようなものとする。
- 化学式、数式の使用は極力避ける。

5) オーガナイザーの氏名・所属 (和文・英文)・性別・年代・職位

6) 概要 (和文・英文／和文全角 200 文字程度・英文半角 400 文字程度)

7) 予定演者の氏名・所属・職位 (および、知りうる限りで、性別・年代)。応募時点での演者による講演承諾は不要です。

8) 連絡窓口となるオーガナイザーの氏名、連絡先

9) 「1. 対象・現象など」「2. 方法など」の分類からそれぞれ 2 つを選択 (以下の表参照)、3 つのキーワード

10) 予想される聴衆数

11) 冠の有無、団体名

※企画の採否ならびに開催枠の割振りはプログラム委員会で最終決定いたしますので、希望に沿えない可能性もございますこと、ご了承ください。

※企画採択されたオーガナイザーには、該当分野の一般演題の編成やポスター賞選考委員へのご就任を併せてお願いする場合があります。

1. 対象・現象など

大項目		小項目	
1	分子	a	ゲノム・遺伝子・核酸
		b	DNA複製
		c	組換え・変異・修復
		d	エピジェネティクス・クロマチン
		e	転写
		f	RNA・RNP
		g	翻訳
		h	タンパク質
		i	糖・脂質・代謝産物
		j	分子進化・比較ゲノム
		k	セルフサイエンス
		l	その他
2	細胞	a	染色体・核構造体
		b	相分離
		c	タンパク質プロセッシング・輸送・局在化
		d	細胞質膜オルガネラ
		e	細胞接着・細胞運動・細胞外基質
		f	生体膜・細胞骨格
		g	細胞増殖・分裂・周期
		h	シグナル伝達（翻訳後修飾）
		i	シグナル伝達（生理活性物質）
		j	細胞死
		k	その他

大項目		小項目	
3	発生・再生	a	器官・形態形成・再生
		b	幹細胞
		c	細胞分化
		d	初期発生
		e	生殖
		f	その他
4	高次生命現象・疾患	a	共生微生物
		b	生物リズム
		c	脳・神経系・神経発生・構造
		d	脳・神経系・行動
		e	脳・神経系・疾患
		f	免疫
		g	感染・ウイルス
		h	老化
		i	がん細胞
		j	がん組織・がん治療
		k	代謝・栄養
		l	遺伝性疾患
		m	植物
		n	マクロ生物学
		o	その他

2. 方法など

i	核酸工学・ゲノム編集
ii	タンパク質工学
iii	ゲノム工学・細胞工学
iv	発生工学・オルガノイド
v	光遺伝学・電気生理学
vi	システム生物学・合成生物学
vii	ケミカルバイオロジー
viii	構造生物学（X線結晶構造解析・クライオEM）
ix	機能予測・薬物設計
x	バイオインフォマティクス
xi	オミクス解析

xii	シングルセル解析
xiii	イメージング
xiv	超解像・特殊イメージング法
xv	画像解析・バイオイメージインフォマティクス
xvi	病因解析・診断
xvii	個体行動解析
xviii	スクリーニング
xix	ロボット・ラボラトリーオートメーション
xx	深層学習・機械学習
xxi	数理モデル・シミュレーション
xxii	その他

◆お問合せ先

第47回日本分子生物学会年会事務局（株エー・イー企画 内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2024@aeplan.co.jp

【日程表（予定）】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
11月26日（火）	オンラインポスター発表・討論 9 : 00-11 : 00 オンラインポスター発表・討論 13 : 00-15 : 00 オンラインポスター発表・討論 16 : 00-18 : 00													
11月27日（水）	シンポジウム (150 min) 9:00-11:30 バイテクセミナー (50 min) 11:50-12:40 学会企画 (75 min) 11 : 50-13 : 05 シンポジウム (150 min) 15 : 30-18 : 00 フォーラム (75 min) 19:00-20:15 ミニシンポジウム (90 min) 15 : 30-17 : 00 ミニシンポジウム (90 min) 17 : 15-18 : 45 貼付 展示会見学 11 : 30-13 : 15 ポスター発表・討論 13:15-15:15 撤去 機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00													
11月28日（木）	シンポジウム (150 min) 9:00-11:30 バイテクセミナー (50 min) 11:50-12:40 学会企画 (75 min) 11 : 50-13 : 05 シンポジウム (150 min) 15 : 30-18 : 00 フォーラム (75 min) 19:00-20:15 ミニシンポジウム (90 min) 15 : 30-17 : 00 ミニシンポジウム (90 min) 17 : 15-18 : 45 貼付 展示会見学 11 : 30-13 : 15 ポスター発表・討論 13:15-15:15 撤去 機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00													
11月29日（金）	シンポジウム (150 min) 9:00-11:30 バイテクセミナー (50 min) 11:50-12:40 学会企画 (75 min) 11 : 50-13 : 05 シンポジウム (150 min) 15 : 30-18 : 00 市民公開講座 (90 min) 18:15-19:45 ミニシンポジウム (90 min) 15 : 30-17 : 00 ミニシンポジウム (90 min) 17 : 15-18 : 45 貼付 展示会見学 11 : 30-13 : 15 ポスター発表・討論 高校生発表 13:15-15:15 撤去 機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00													

※あくまで 2023 年 11 月時点での予定であり、今後変更される可能性があります

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.136 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員会審査用に、上記申請書類のコピー 1 部
- 3) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です)
- 4) 上記 1) 2) 3) の送付とは別に、学会用控として申請書の電子データ (論文は不要) を学会事務局 (info@mbsj.jp) まで送信して下さい。
電子データは Word、PDF ファイルのいずれでも結構です。
*必ず学会の締切日までに郵送資料と電子データの両方が到着するようにご手配下さい。

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 齊藤 典子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 杉本 亜砂子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がございましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成 (学会推薦) に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞 (学会推薦) に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
(本学会の事業年度は 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までです)
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

第23期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2023年1月1日～2024年12月31日)

後藤由季子（東大・薬）

副理事長

見學美根子（京大・iCeMS）、塩見 春彦（慶應大・医）

理事

阿形 清和（基生研）

大谷 直子（大阪公大・医）

岡田 由紀（東大・定量研）

鐘巻 将人（遺伝研）

加納 純子（東大・総合文化）

木村 宏（東工大・科学技術創成研究院）

胡桃坂仁志（東大・定量研）

小林 武彦（東大・定量研）

小安 重夫（量研・QST）

斉藤 典子（がん研）

白髭 克彦（東大・定量研）

杉本亜砂子（東北大・生命）

高橋 淑子（京大・理）

中川 真一（北大・薬）

中島 欽一（九大・医）

中西 真（東大・医科研）

中山 敬一（医科歯科大・高等研究院 / 九大・生医研）

二階堂 愛（医科歯科大・難治研 / 理研・BDR）

仁科 博史（医科歯科大・難治研）

濡木 理（東大・理）

深川 竜郎（阪大・生命）

三浦 恭子（熊本大・生命）

三浦 正幸（東大・薬）

水島 昇（東大・医）

柳田 素子（京大・医）

吉田 稔（理研 / 東大・農）

吉村 昭彦（慶應大・医）

(五十音順)

監事

佐々木裕之（九大・生医研）、塩見美喜子（東大・理）

幹事

庶務幹事 岡田 由紀（東大・定量研）、中川 真一（北大・薬）

会計幹事 東山 哲也（東大・理）

編集幹事 上村 匡（京大・生命）

広報幹事 木村 宏（東工大・科学技術創成研究院）

国際化担当幹事 深川 竜郎（阪大・生命）

第23期執行部

後藤理事長、見學副理事長、塩見副理事長、岡田庶務幹事、中川庶務幹事、木村広報幹事

Genes to Cells 編集長

西田栄介（理研・BDR）

賞推薦委員会

斉藤典子（委員長）、加納純子、中島欽一、水島 昇、吉田 稔

研究助成選考委員会

杉本亜砂子（委員長）、阿形清和、白髭克彦、濡木 理、柳田素子

国際会議支援・選考委員会

小林武彦（委員長）、高橋淑子、中西 真、中山敬一、仁科博史

キャリアパス委員会

胡桃坂仁志（委員長）、井関祥子、岩崎由香、大川恭行、甲斐歳恵、鐘巻将人、
來生（道下）江利子、佐田亜衣子、武部貴則、西山朋子、平谷伊智朗、三浦恭子

研究倫理委員会

小安重夫（委員長）、大谷直子、二階堂愛、三浦正幸、吉村昭彦

生命科学教育

篠原 彰

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2023 年 11 月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エー・イー企画
一般財団法人化学及血清療法研究所
科研製薬株式会社 新薬創生センター
コスモ・バイオ株式会社
株式会社 seeDNA 法医学研究所
ジェンスクリプトジャパン株式会社
第一三共株式会社 モダリティ研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
中外製薬株式会社
株式会社東海電子顕微鏡解析
東洋紡株式会社 バイオプロダクト営業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部 バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱ケミカル株式会社
ヤマサ醤油株式会社 R&D 管理室
湧永製薬株式会社 研究管理部研究管理課
ワケンビーテック株式会社 学術部

(23 社、50 音順)

■第 46 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2023)

公式ウェブサイト

<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/>

X (旧 Twitter) アカウント

https://twitter.com/mbsj_2023/

■第 47 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2024)

公式ウェブサイト

<https://www.aeplan.co.jp/mbsj2024/>

■日本分子生物学会

公式ウェブサイト

<https://www.mbsj.jp/>

Facebook アカウント

<https://www.facebook.com/mbsj1978/>

X (旧 Twitter) アカウント

https://twitter.com/MBSJ_official



特定非営利活動法人

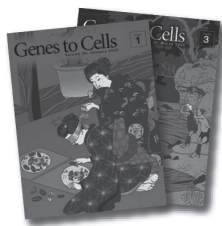
日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

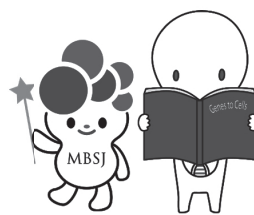
TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp



日本分子生物学会 学会誌

Genes to Cells で おトクに出版



費用をかけずに
論文を出したい

Genes to Cellsでの論文出版は
原則として**無料**です！

このとき、最初の6ヶ月間は有償アクセス※1
ですが、その後は無償公開されます！

※1：論文が収載された号の出版口から起算し6ヶ月間。
なお、分子生物学会員は無償アクセス可能です。手続
方法は右の二次元コードからご確認ください。



即時オープンアクセス
(OA) で出版する必要
がある

Hybrid Journalなので、**即時のOAも選択可能**です。
この場合、**APC (掲載料) ※2** をお支払いいただく
必要がありますが、各種割引があります。
下のフローチャートを参照してください。

※2：3,800米ドル（2023年4月現在）

APC (掲載料) 割引 フローチャート

お気軽にお問い合わせください
Genes to Cells編集室
office@genestocells.jp

責任著者の所属機関が
Wiley社と転換契約を
結んでいる※3

Yes

大幅な割引が適用されます。
手続き方法の詳細・自己負担額
は、所属機関にご確認ください。

No

著者のうち1人以上が
分子生物学会の会員

Yes

会員割引※4 が利用可能です。
アクセプト後に、会員氏名と
会員番号を編集室へお知らせ
ください。
折り返し、クーポンコードを
お知らせします。

No

この機会に
分子生物学会への入会を
ご検討ください

入会后

未入会の方は、通常の出版手続きを優
先して行い、入会手続き完了後
にOAの申し込みをしてください。

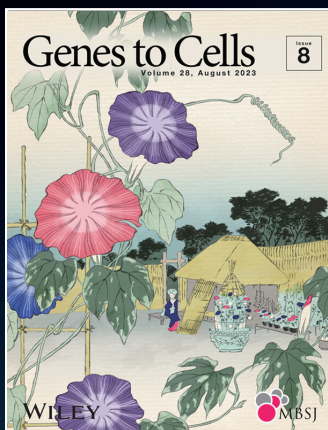
※3：2023年4月現在：岩手大学、東北大学、埼玉大学、東京大学、
東京工業大学、電気通信大学、山梨大学、信州大学、総合研究大学
院大学、福井大学、三重大学、京都大学、九州工業
大学、東京都立大学、慶應義塾大学、東京理科大学、
神奈川大学、沖縄科学技術大学院大学。最新のリス
トは右の二次元コードからご確認ください。

※4：3,800米ドル→3,000米ドルへ割引されます。
(2023年4月現在)



割引の併用はできません。

このリーフレット記載の情報は2023年4月現在のものです。作成：Genes to Cells編集室 office@genestocells.jp 2023年4月



Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Eisuke Nishida

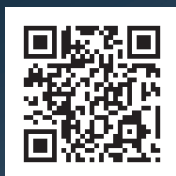
Frequency: Monthly | Impact Factor 2.10

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界13,000以上の機関で読まれており、年間360,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- カラー掲載料無料
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- オープンアクセス希望者はオプションで『Open Access』（有料）を選択できます
 - 代表責任著者のご所属機関がWileyと転換契約を結んでいれば、割引を受けられます
 - 上記に該当しない場合でも、共著者にMBSJ会員が含まれていれば割引があります
- 総説は日本分子生物学会のサポートを受け、無償で Open Access として出版されます

詳しくはこちらをご参照ください <https://www.mbsj.jp/gtc/index.html>



オンライン投稿はこちら <https://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2021年・2022年出版 引用数TOP論文 *2023年8月現在

Meflin defines mesenchymal stem cells and/or their early progenitors with multilineage differentiation capacity (Volume 26, Issue 7)

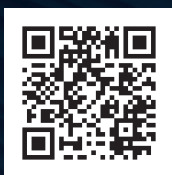
Hara, A; Kato, K; Ishihara, T; Kobayashi, H; Asai, N; Mii, S; Shiraki, Y; Miyai, Y; Ando, R; Mizutani, Y; Iida, T; Takefuji, M; Murohara, T; Takahashi, M; Enomoto, A

The role of eutherian-specific *RTL1* in the nervous system and its implications for the Kagami-Ogata and Temple syndromes (Volume 26, Issue 3)

Kitazawa, M; Sutani, A; Kaneko-Ishino, T; Ishino, F

An ALS-associated KIF5A mutant forms oligomers and aggregates and induces neuronal toxicity (Volume 27, Issue 6)

Nakano, J; Chiba, K; Niwa, S



ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会員は無料でアクセスできます。

初回ユーザー登録は学会事務局まで (info@mbsj.jp)

登録後の問合せはWileyまで (cs-japan@wiley.com)



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年 3 回刊行)

第 137号 (2023年11月)

発 行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——後藤 由季子